

## 第1期中級登山教室を終了して

中級登山教室リーダー 宮崎紘一

中級登山教室は受講生16名でスタートした。リーダー育成を目標としていたが、登山経験の浅い受講生が多かったため、登山経験を重ねる事から始めた。

山行ごとに登山計画の立案、調査、登山中の判断、決断を学び、下山後は反省、報告、データの蓄積などを行った。宿泊山行、準備会、反省会とミーティングの回数も多くなった。仕事の忙しい受講生には時間的負担が大きく、2年目から脱落者が増えて、最後の頃の

山行は10人を切るようになった。テント泊登山、行動時間の長い山、岩稜登山など多くの登山経験を重ねさせたいと

思っていたが、台風などで中止した計画があり残念だった。しかし、雨の中の剣岳に登った経験は貴重だった。

リーダー研修としては充分とは言えなかったが、教室を修了した受講生は、登山に必要な基本的力量の進歩が著しく、無雪期の一般ルートは安心してこなせるようになった。クライミング・雪山の体験は充分でないため、今後、セルフレスキューなどリーダーとしてのスキルを高めてほしい。修了証を受け取った11名の修了生には危険に対する判断や状況判断などの経験を重ね、支部の牽引力となる事を期待する。



富士山で雪上訓練



剣岳登頂後に達成感をかみしめて

## 自立した登山者へ

村岡庸こ

2年間の講習で得たものは大きい。それまで縦走やテント泊山行を自己流で行ってきたが、グループ登山は計画の段階から全く異なるものだった。企画、気象、装備、食事、記録、会計をすべてを持ち回りで担当する。個人山行とは違い、自分の体力や好みでルートや装備品を決められない。一つ一つの山行には毎回目的があり、山行を終えるごとにステップアップしていける。ルートファインディング、長時間歩行、テント泊、岩稜帯歩行など様々なテーマが課される。

またグループ登山では自分がグループの足かせにならないように、いつも緊張している。普段の生活でも自然と体を鍛えたり、知識を増やそうと努力する。地図の読み込みもするようになる。回を重ねるごとに仲間の成長が感じられ、我が身を反省する。次第に仲間との信頼関係が築かれる。準備にかかる時間が短縮され、計画に奥行きができる。振り返れば受講前よりも格段に自立した登山者に近づけたように思う。



宮崎氏から修了証を受け取る村岡さん

## リーダー育成への道 中原三佐代

中級登山教室の大きな目的は『リーダー育成』だった。参加するにあたり、自分のステップアップのためというのが本音である。初級の班リーダーとして参加しながら、常に「リーダーとは？」と自分に問いかけていた。参加するたびに至らない所だらけで受講生に申し訳なく、「リーダーは無理!」と思っていた。

修了式で二人の講師の、「私たちは何も教えてない。逆に自分たちの勉強になった」との言葉に、非常に驚いた。いろいろな事を教わったのは私達なのに。このギャップはいったい何だろう。やはり講師の方々の存在感ではないだろうか。絶対的な安心感を与えてくれた。ともに歩き、ともに体験する事で『山』を教えてくれた。机上で望ましいリーダー像を学び、それに固執して「無理!」と思い込んでいた自分に気が付いた。中級登山教室での体験は大きかった。仲間も宝物になった。

すべてがリーダーへの道に繋がっていたと、今、感じる。その道は、まだまだ続いている。



金峰山でライندگان

## シェフの腕もアップ 富永真由美

中級登山教室で登った山をリストアップしてみた。11座だった。中級登山教室のおかげでテント泊を経験できた。60Lのザックに必要な装備や食料などを入れると、13kgにすぐなる。権現岳は講師1人、受講生7人の計8人でテントは2つ。受講生は全員女性。装備を分担すると重さがズッシリとくる。水場が枯れているかもしれない、水も担ぐことになった。

私は食料担当で、食事の分量の見方や手際の良さは我ながら素晴らしいと思う。いつものメンバーなので食べる量も分かり、夕食は水をあまり使わない白菜のミルフィーユにし、鍋の後始末までイメージできるようになった。朝食もお湯を沸かせれば食べられるフリーズドライの豚汁にして、満足してもらえた。これも中級で培われた技と思う。権現岳の山頂まで重いザックを背負ったこと、三ツ頭から見た赤岳の景色など忘れられない。

権現岳の岩の山頂でひしめきあう



権現岳の山頂まで重いザックを背負ったこと、三ツ頭から見た赤岳の景色など忘れられない。

## 和名倉山の白い花 西山さより

その花の名前はまだ分からない。

9月の和名倉山の山行2日目、早朝に将監小屋を經ち、山ノ神土から背丈ほどの笹藪の中の道を辿る。いつしか朝靄もあがり、道筋に、山肌に、白い小花の群れ。行けども、行けども現れる。仲間がスマホで調べたらゴマナと出た。帰宅後、撮った写真と比してゴマナかシロヨメナかと図鑑をくりネットをググる。が、判然とせず。その時、閃いた! どちらも咲いていたのではないか。

秩父湖へ下りる道は昭文社地図では破線ルートで、ルートファインディングが目的の山行。北ノタルからは踏み跡は不明瞭で、以前は迷う登山者もいたようだ。下山後に橋の袂で皆と握手を交わす。静かな達成感に、もう来ることないだろうと思う。が、あの白い花が頭をよぎった。そこはまた訪れてみたい山へと変わった。



朝靄のなかを和名倉山へ

## 第7期初級登山教室を終了して

初級登山教室リーダー 河野悠二

第7期初級登山教室では今までにない新しい試みを二つした。一つは、初心者受講生の継続参加者の減少対策として、初級開始時に新規に受講生を募集したこと。その結果、継続者18名に新規受講生13名が加わり、計31名で初級をスタートできた。もう一つは、足つり、尻もち、転倒などのトラブルが時々発生したので、受講生の体力を把握するため山行とトレーニング(ジョギング、スクワットなど)の

記録を毎月提出してもらうようにした。これが体力強化に役立ったのかトラブルは減った。

実習山行で特に印象に残ったのは初級初回の9月の

高水三山で、初級から参加した新規受講生は雨が降るなかを山行する大変さを経験することになった。3月の百蔵山・扇山では途中から雪となり幻想的な山登りとなった。雨天延期で8月に行われた川苔山は、猛暑と闘う厳しい登山であった。11月の高畑山・高桑山では岩場を、フィックスロープを使って通過した。

修了生はこれらの経験を今後の山登りに生かして成長して欲しいと思う。一方で、私が山行リーダーを遂行できたことは、登山教室講師、スタッフのご理解やご協力があったことと感謝を申し上げる。今後も、ますます登山教室を盛り上げ、スタッフとして参加される会員も増え、登山教室が継続されるよう切にお願いしたい。



岳沢ヒュッテのテラスにて全員集合



紅葉の高川山で

### 独学では得難い経験

藤本浩文

思い返せば2年前、「毎月山登りができる教室があるよ」と職場の先輩に誘われたことがきっかけでした。講義や実習を通して、山での歩き方、装備とその正しい使いかた、地図の読み方など、登山に最低限必要な技術と知識を学べたことも嬉しかったですが、それ以上に山に登る心構えを勉強させていただいたと思います。高畑山や大菩薩嶺でのルート変更の判断や、川苔山山行中止の決断では事前準備の大切さを教わりました。棒ノ折山で先頭を歩く体験をさせてもらったところ、作業道に入ってしまう道迷いの怖さを体感しました。8月に延期された川苔山ではペース配分の難しさを実感しました。そして

三ツ峠で中間の怪我という緊急事態に直面し、低山であっても下山できなくなる可能性があることを認識させられました。いずれも独学では得難い経験でした。河野山行リーダー、宮崎総括リーダーをはじめスタッフの方々に心から感謝いたします。学んだことを思い出しながら、これからも末永く安全な山登りを楽しんでいきたいと思っています。

BCの修了式で挨拶する河野さん



終了山行でステーキを焼く藤本さん

&lt; 支部長からお知らせ &gt;

**新型コロナウイルス感染症と東京多摩支部**

支部長 野口いづみ

## さまざまな行事、次々と中止、または延期に

新型コロナウイルス感染症の拡大によって世界中が大きな危機に直面しています。東京都では緊急事態宣言が発令される事態となりました。日本山岳会においても古野会長から2月27日にイベントの、3月31日に山行の、それぞれ実質的な自粛要請がなされました。

本支部においても多くの予定が中止または延期されました。10周年記念事業としては、ザンスカール遠征が1年延期されることになり、4月の「長尾平」懇親山行も延期されました。評議員会、4月幹事会・常務幹事会、各委員会例会、安全対策委員会講習会、立川サロン、定例山行と平日山行、新入会員懇親山行も中止または延期されました。登山教室は4月に開講予定だった8期・9期・中級登山教室が延期されました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延は長引く危険が指摘されており、5月以降の行事も影響を受ける可能性があります。立川市女性総合センターは5月6日まで閉鎖されていますが、再開の見通しは不透明です。このような状況で、5月9日に予定されていた支部総会は、幹事会で審議の結果、書面審議をもって行うことを余儀なしと判断するに至りました。会員の皆様の貴重なご意見をうかがえる機会が、誠に残念ですが、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

皆様におかれましても三密を避け、お体にお気をつけてお過ごしください。1日も早い新型コロナウイルス感染症蔓延の終息と、支部行事が実施できるようになることを願っております。

## &lt; BC委員会報告 &gt;

## 奥多摩BC開きと氏神様初詣

1月12日に奥多摩BC開きと氏神様初詣が行われた。参加者は石井、石塚、神崎、北島、木村、黒木、小嶋、小清水、坂本、高橋(清)、富澤、中村(敦)、西村、原、本多、松川(征)、松川(信)の17名だった。

9:30 にBCに集合し、11名で出発した。南氷川の氏神羽黒三田神社へ向かう。舗装道路から表参道の山道を登る。今年の山の安全をお願いする。栃久保への道中、立派な本仁田山が正面に見えた。次に寿清院へ向かう。本尊に千手観音を安置する海禅寺派の寺院で、古く趣のあるお寺だった。少し下ると栃久保の氏神様の根元神社がある。医薬の神とされる少彦名命を祭神とし、社地内には子安神社・愛宕神社が祀られている。最後に奥氷川神社参拝。東京都天然記念物に指定されている三本杉は樹齢700年、樹高50m、都内最高の杉だ。

11:40、BC着。12:20、新年交歓会が始まる。北島さんが差し入れた日本酒「獺祭」が空になるころま



三田神社にて

で、東京多摩支部について語り合った。山岳会には色々な経歴の方がいる。思い切って話しかけると楽しい話や為になる話が聞ける。そのためには機会を自分で作らないといけない。委員会委員になったり、サロンなどの集いに積極的に参加するのが良いと思う。  
(文/中村敦子)

## &lt;12月定例山行&gt;

## 大峰・泣坂の頭 ー南大菩薩の檜ノ木尾根ー

【日 時】 2019年12月14日(土)

【天 候】 晴れ

【参加者】 22名/総括L濱野、撮影清水(義)、[A班]L石橋、SL清水(茂)、赤坂(憲)、石川、三尾、山内、  
[B班]L齊藤、SL広瀬、佐久間人見、植草、加瀬、土田、  
[C班]L鬼村、SL富永、小野、今野、大澤、中村(敦)、内村【行 程】 8:28 猿橋駅発=(富士急バス)=9:00~20 上和田バス停→11:30 水無山→12:50 大峰(1403m)→  
13:15~35 泣坂の頭(1421m)→13:40 大峰→15:00 水無山→16:40~45 上和田バス停=(チャーターバス)  
=JR 大月駅

## 【記 録】

猿橋駅の駅舎の北側に目指す山容が遠望できる。2週間前の下見では北側斜面に凍結があり、標高950m付近から積雪が2cm程度あったので、軽アイゼンを必須とした。管轄役所への問い合わせでは気温が高い日が続いており雪氷は溶けているとの回答だったが、不安が残る。

9:15に出発。登山口まで舗装され曲がりくねった生活道路が続く。登山道に入るといきなりルートファインドを迫られる。登山道は落ち葉や獣道らしい踏み跡が至る所に見られ不明瞭。目指す山頂方面へ伸びる尾根に取り付くために、踏み跡や少しでも歩きやすい場所を探し歩く。ここは経験がものを言い、清水(義)さんが尾根への近道を先導してくれた。

標高900mを超えるあたりから急登となり、隊の間に距離が開き始めたので、無線でペース配分の配慮をした。凍結や積雪はないが大きな岩や段差が邪魔し歩きにくい。順調に高度を上げ、ほぼ定刻の11:00過ぎに最初のピーク水無山に到着。快晴の山頂から南に目をやると富士山、三ツ峠山など御坂山塊が遠望できる。北側には奈良倉山~大マテイ山へ続く尾根がよく見える。山頂域は非常に広いので、下山場所を迷わないよう目印を確認し合った。



西沢の頭付近にて三角点の説明

次のピーク西沢の頭、その先の大峰に向け、登山道は直角に折れ北西方向となる。広い尾根を下し、西沢の頭への登りに差し掛かると、一部で登山道が不明瞭となり、低木が繁茂し行く手を遮る個所が続くが、迷うほどではない。大峰への登りは南面の急登で乾燥した土埃が時折舞い、滑りやすい場所があり、ペースが落ちた。12:30を回ったので、大峰山頂で短い食事休憩。

最後のピーク泣坂の頭は山頂が広くわかりにくい。清水(義)さんから三角点の説明を受け、下山開始。大峰と水無山からの急な下りを慎重に歩いた。予定より早い16:00過ぎ下山。水無山の下山では足の置き場を指示するなど、名前の通り“泣く坂”だった。(文/濱野弘基、写真/清水義浩)

## ミニレポート

## 八ヶ岳の天狗岳周回

日時/2020年2月9日(日)~10日(月)

参加者/L中村(哲)、中村(照)

行程/1日目 唐沢鉱泉→黒百合ヒュッテ

2日目 黒百合ヒュッテ→東天狗岳→西天狗岳→西尾根→唐沢鉱泉

2日目は-17℃と寒く雪が降り始めたが、黒百合ヒュッテから9:00に東天狗岳、9:30に西天狗岳の山頂を踏み、唐沢鉱泉に下山した。



西天狗岳山頂



黒百合平から見た東西天狗岳



東天狗岳

## &lt;1月定例山行&gt;

## 北八ヶ岳ニューウー雪とシラビソの樹林ー

- 【日 時】 2020年1月11日(土)～12日(日)  
 【天 候】 1日目晴れ、2日目晴れのち雪  
 【参加者】 14名／総括L佐藤、[A班]L齋藤、SL赤坂(憲)、野口、人見、関口、解良、赤坂(優)、  
 [B班]L清水(茂)、SL富永、植草、石川、山内、今野  
 【行 程】 1日目／茅野駅前(集合)=10:55渋の湯温泉→12:10パノラマコース分岐→13:40黒百合ヒュッテ→  
 14:05～10天狗の奥庭→14:25黒百合ヒュッテ(泊) 2日目／7:00黒百合ヒュッテ→7:20中山分岐→  
 8:30～40ニューウ→10:10～20中山→11:05～11:22高見石小屋→13:10～14:55渋の湯(入浴)=  
 15:50茅野駅前(解散)

## 【記 録】

◇1/11◇茅野駅からバスで渋の湯に到着。硫黄の匂いが漂う中、身支度や準備運動をし、いざ出発。慣れないアイゼンに最初は下ばかり見て登っていたが、徐々に慣れ、ザクザク雪道を歩くのが楽しい。顔を上げると、樹林帯の緑と真っ白な雪のコントラストが美しい。雲一つない青空に期待を膨らませて登り続ける。ほぼ予定通りに黒百合ヒュッテ着。ザックを置き、ヒュッテ前にそびえる高台へ。佐藤Lがラッセルで作ってくれた踏み跡をたどるが、あちこち穴があり慎重に。ここは強風で有名な場所だそうで、薄着のまま来てしまった事を後悔する。

しかし登りきると素晴らしい景色！ 強風がひどく、写真を撮ったり、景色を楽しむ余裕がないのが残念。このように大きな「エビのしっぽ」を見たのも初めて。そこそこにヒュッテに戻り、夕飯までの間、くつろぐ。リーダーたちは明日の下見に出かけ、「申し訳ない！」と思いつつ、JAC カードのサービスの恩恵にあやかり、ビールやワインを頂き楽しい時間を過ごした。

元気をくれた天狗岳を背に



◇1/12◇7:00、黒百合ヒュッテ発。気温は-12℃。ニューウに向かう道はアップダウン続き。予想していなかった事に、見晴らし台から雲海と朝日を見ることができた。さらに進むと、目の前に迫る東天狗、西天狗。元気をもらって、ひたすら歩く。ニューウの手前でリュックを置き、最後のひと踏ん張り。ニューウも風が強いと聞いていたが、360度の大パノラマに感動して、気にならない。下山途中から雪が降り始めた。

中山から先はパウダースノーで歩きにくい。高見石小屋を経由して、予定より早く無事下山。2日間の雪山山行で同じ山域でも場所により雪質が違うことを教わり、衣服調整や歩き方、寒冷地での行動食の取り方などのアドバイスもいただいた。とても勉強になり、充実した楽しい2日間だった。(文／解良知子、写真／佐藤守)

ニューウ山頂で展望に満足して万歳!



## &lt;2月定例山行&gt;

## 霧ヶ峰高原 スノーシューハイカー

【日 時】 2020年2月24日(日)

【天 候】 曇のち晴れ

【参加者】 7名/L小野(勝)、SL酒井、広瀬(以上山行委員)、吉川、解良、今野、奥山

【行 程】 6:37分倍河原駅南口=(マイクロバス)=9:53~10:18車山高原=リフト=10:25~10:38車山山頂→  
11:08車山乗越→11:40~50蝶々深山→12:30~13:15物見岩(昼食)→14:05~20奥霧小屋→15:10~25  
沢渡→16:45~17:05車山肩=17:25~45車山高原=20:45分倍河原駅(解散)

## 【記 録】

当初は2月22日催行予定だったが、荒天の予報で24日に変更。参加申込者は13名から7名になった。中央高速は渋滞がなく、予定より早く車山高原に到着。気温3℃、無風晴天。スキー客で賑わっている。スカイパノラマリフトに乗り、10分強で車山山頂直下に着いた。山頂は1925mで冷たい北西の微風が吹いている。レーダードームのある山頂に向かって踏み固められた雪の階段状の道を歩く。5分で山頂に。富士山、八ヶ岳、御嶽山、南、中、北アルプス、朝日連峰、菅平、妙高山などの眺望が素晴らしい。

それぞれに眺望を楽しんだ後、アイゼンを履いて車山乗越に向かってスキーゲレンデの脇を下りる。車山乗越手前でスノーシューに履き替え、登山道をゆっくり降りた。蝶々深山へ100m程登ると石ころだらけの山頂に着く。冷たい北西の風が吹き曝す山頂を避け、物見岩に下りて昼食をとる。そこから歩いて来た車山、これから向かう八島湿原、車山の肩と小屋がよく見える。北アルプスの穂高岳、槍ヶ岳、後立山連峰のシルエット  
車山山頂の神社にて



山頂から北アルプスを望む  
蝶々深山の山頂で

までも眺められる。

昼食後、奥霧小屋に向けて、150m程スノーシューで登る。奥霧小屋手前の林道から雪が消え、沢渡に続く林道は地肌が露出している。陽射しが強く、春の様な暖かさの中、汗ばんで50分程歩くと沢渡に着き、車山の肩に向け登る。道はあまり歩かれていないようで、トレースは途中から消えた。廃屋となっている車山肩小屋を目指してスノーシューを履いて登ると、スノーシューの威力に改めて気付いたメンバーもいた。1時間半弱で車山肩に着き、待っていたマイクロバスに乗り込んだ。渋滞のために予定の30分遅れで分倍河原駅に到着した。

(文/小野勝昭、写真/酒井俊太)

😊 奥山感想・スノーシューで広々とした草原を散策できる喜びでワクワクした。誰も踏んでいない雪を踏みしめながら歩いてみた。ザクザクして気持ちが良く、自然と笑顔になる。登山教室修了後ほぼ初参加となる山行で、先輩や同期の仲間と話しながらの楽しい山行だった。

## &lt;12月平日山行&gt;

## 三国山 一新雪の富士山を眺めながら

【日 時】 2019年12月26日(木)

【天 候】 晴れ

【参加者】 6名/L高砂、SL小野(勝)、中原、清水(茂)、川島、中尾

【行 程】 8:10 JR 御殿場駅発=(バス)=8:43 籠坂峠→9:00 登山口→9:50 アザミ平(1292m)→10:30 明神峠(1366m)→11:10 大洞山(1384m)→楢木山(1353m)→12:15 三国山(昼食)→13:00 三国峠→鉄砲木ノ頭(1291m)→14:00 パノラマ台→14:30 三国山登山口→15:00 山中湖旭ヶ丘バス停(解散)

## 【記 録】

天気予報は前々日までは雨だったが、前日に曇りに変わり、実施されることになる。当日は風がなく、曇天だが時々陽が射す山行日和になった。8:00に御殿場駅に集合。御殿場線に乗り換えてまもなく、車窓に壮大な真白な富士山。テンションは一気に上昇！御殿場駅からのバスの車内では大きくそびえたつ富士山に、思わず笑顔。これがこの日一番の富士山だった。

籠坂峠に近づくとつれ、予想外の雪景色にビックリ。籠坂峠バス停で下車し登山口へ進むと、そこには積雪が。その週の初めに降ったと思われる雪が30～40cm。凍ってはいないのでアイゼンは付けず、リーダーを先頭に出発した。雪道での歩き方を教えてもらったりしながら、一面の雪景色の中を歩く。アザミ平に着く頃には雪道にも慣れ、銀世界を楽しめるほどになった。

明神峠では芦ノ湖大涌谷に霞がかかり、幻想的で、冬ならではの景色。大洞山への道では、富士スピードウェイの爆音が、リズムカルに聞こえ、元気づけられた。大洞山を越え、三国山(1340m)で昼食をとり、黄金色の明神山へ。一直線の登りをストックに助けられ頂上へ。鉄砲木ノ頭から富士の裾野と山中湖を臨む。予定していた時間を多少オーバーしたが、無事、三国



楽しさいっぱいの三国山山頂にて



大洞山から楢木山へ

山登山口へ下山し帰路へ。今年最後の山行は、スタートからゴールまで新雪を歩くという、楽しいものとなった。

(文/中尾理絵・川島ひろ子、写真/高砂寿一)

## ミニレポート

沼津アルプス  
富士山と駿河湾を眺めながら

日時/2020年1月5日

参加者/L野口、SL植草、石原、川崎、櫻井(美)、  
嶋田、清水(茂)、中原、吉川、会員外2名

行程/多比→大平山→鷲津山→徳倉山→香貫山

南の多比から北の香貫山まで縦走。最高峰は鷲津山(392m)だが、全5座7峠、累積登り1200mと超低山の健脚コース。夕陽の中を下山、港町で海鮮丼を楽しんだ。



香貫山から沼津アルプスを振り返る

鷲津山から富士山と駿河湾を望む





## &lt;3月平日山行&gt;

## セーメーバン ー春の尾根で山座同定を楽しむー

【日 時】 2020年3月12日(木)

【天 候】 快晴

【参加者】 18名/L西山、SL中原、班SL鬼村、班SL石橋、小野、関口、川島、人見、吉川、植草、金山、酒井、解良、上原、吉田、今野、山内、石川

【行 程】 8:30 大月駅=(タクシー)=9:00 森屋荘(登山口)→9:45 サクラ沢峠→10:45 セーメーバン→11:10～55 休憩→12:15 セーメーバン(1006m)→13:10 サクラ沢峠→13:40 高ノ丸(782m)→14:05 トズラ峠→14:50 遅能戸バス停=(バス)=大月駅

## 【記 録】

大月駅に集合した参加者がマスクをしている。新型コロナウイルスか花粉症か。無風、青空、陽の光。タクシーで賑岡町金山の森屋荘登山口へ。中原 SL が動的ストレッチを取り入れた準備体操をリード。サクラ沢峠までの登山道は小さい沢を一つ渡って急登を上り、200mほど標高を上げる。サクラ沢峠で休憩してから尾根道を歩き出す。やがて振り返ると白い富士山が見える。青空とのコントラストに嘆声上がる。この天気が皆を押し上げている。鉄塔を何本か見送り、10:45 にセーメーバン山頂に到着。参加者が口々にセーメーバンという山名に惹かれたという。「平安時代の陰陽師の安倍清明が村人に頼まれて水を引く約束をしたが、鬼に阻まれて命を落と



「あれが三ツ峠」と山座同定

した地」伝説がある。

東が開けていて権現山や百蔵山を望むことができる。ゆるりと尾根歩きをして大袋山寄りのピークで昼食。下りはサクラ沢峠まで戻る。登りはフーフーの汗をかいたが、下りは急な斜面にひやひやの汗をかく。開けた緩い斜面で、眼前に広がる展望を楽しむ。石橋班 SL の山座同定に耳をすます。「あれが三ツ峠、鶴ヶ鳥屋山、そして滝子山、大蔵高丸、ハマイバ丸、杓子山に鹿留山」などなど。13:10 にサクラ沢峠に着く。広い尾根の樹林はまだ芽吹いていない。高ノ丸から鉄塔の巡視路を頼りに下る。トズラ峠から林道をのんびり歩く。遅能戸バス停で談笑している皆の姿はまだ余力があるようだった。

(文/西山さより、写真/酒井俊太)

😊 小野感想・サクラ沢峠から春を感じさせる快適な尾根歩き。終始、皆が穏やかな表情で楽しい山歩きに満悦した様子が何よりだった。



金山

吉田

川島

上原

セーメーバン山頂にて

## 新人です。よろしく！

上原加津維さん 8期受講生。山を再開し、昨年、JAC入会。低山からアルプス級の山、いろいろな山歩きを楽しみたいです。

川島ひろ子さん 6期修了生です。毎回ワクワクして参加。早朝、桜木町駅からの乗車、乗り換えは必死です。

吉田博子さん 6期修了生です。この歳になって初めて山歩きの楽しさを知りました。憧れは花の名峰北岳です。

金山保之さん 最近は奥秩父の山々に登っています。料理を作るのが好きです。

## &lt; 第7期初級登山教室 &gt;

## 三ツ峠山 — 受講生のケガの対応に課題 —

【日 時】 2020年1月11日(土)

【天 候】 晴れ

【参加者】 37名(受講生26名、スタッフ11名) / [1班] 暁、川合、近藤、菅野(浅)、高岡、富山、中村(美)、馬場、元木、班L小河、班SL広瀬、山行L河野、SP竹中 [2班] 小泉、中尾、西岡、日向、藤本、皆川、村上、矢野、班L中原、班SL小野、講師宮崎、SP小澤 [3班] 石橋、上田、長田、小林、菅野(尤)、菅野(玲)、長岡、原田、山本(曜)、班L山本(憲)、班SL中村(敦)、SP吉川

【行 程】 6:45 立川=(バス)=8:35 ~ 55 三ツ峠登山バス停→9:10 ~ 35 登山口→10:35 ~ 45 ベンチ→11:25 ~ 55 三ツ峠山荘→12:10 ~ 25 三ツ峠山(開運山)→12:40 ~ 55 三ツ峠山荘→14:15 ~ 25 林道出合→14:45 ~ 15:05 鉄塔→16:00 ~ 05 母の白滝→16:20 ~ 35 河口浅間神社=18:25 立川

## 【記 録】

三ツ峠山荘ご主人の中村(光)さんによる情報では、小屋の前は雪がほとんどないとのことだった。三ツ峠登山口バス停にはむろん雪がなかったので、アイゼンを付けずに登山口まで移動し、登山道に入る。樹々の間の道にはところどころに凍った雪があったので、それを避けながら進む。しばらく歩くと全面に凍った雪が現れ、歩き方が不安定になった受講生がいたので、アイゼンを着用させ効果を実感してもらおう。三ツ峠山荘に着くと富士山の雄大な姿に感激する。少し早い昼食とする。中村さんがお茶を振るまってくれた。

アイゼンを外し、開運山に向かう。先の小高い所から南アルプス、八ヶ岳の展望がすばらしい。登りは小石を敷き詰めた階段が続く。少し登りを頑張ると開運山で正面に富士山、右手には南アルプス、八ヶ岳がよく見える。下山して、三ツ峠山荘に戻る。後は母の白滝経由で河口浅間神社に下山するのみだ。木無山から、登山道が深く掘れた急な下りが始まる。

三ツ峠山から冠雪した南アルプスを見る



注意深く下っていたが、突然、隊列が止まった。13:20、受講生が滑って足首をひねったようだ。足首をテープで固定したが歩行が困難だった。中村さんに連絡し、朝登ってきた登山道まで降りて、そこで彼のジープにピックアップしてもらい、登山口まで搬送していただくことになる。他のメンバーは予定通り河口浅間神社に向け下山する。負傷した受講生をスタッフ3人で朝登ってきた登山道まで移動させ(13:50)、中村さんのジープで搬送してもらった(14:35)。15:20、タクシーを乗り継いで、15:40に河口浅間神社に到着し、本隊に連絡する。貸切バスは到着していたので、山本が負傷者に付き添い、タクシーで病院に向かった。20分ほどで本隊も下山した。

今回は、運良く中村さんの協力を得られたが、現場での指示や通信手段を失うなど、山行リーダーとしての役割が十分果たせなかったことが反省される。(文・写真/河野悠二)



三ツ峠山山頂にて

## &lt;第7期初級登山教室&gt;

## 入笠山 —スノーシューは楽しい！—

【日 時】 2020年2月1日(土)

【天 候】 晴れ

【参加者】 34名(受講生24名、スタッフ10名)／〔1班〕暁、川合、近藤、菅野(浅)、高岡、富山、中村(美)、馬場、元木、班L小河、班SL広瀬、SP小野、吉川  
〔2班〕上市、泉、中尾、西岡、日向、藤本、皆川、村上、矢野、班L山本(憲)、班SL植草、山行L河野、〔3班〕石橋、上田、小林、菅野(尤)、原田、山本(曜)、班L土井、班SL齋藤、SP小澤

【行 程】 6:50立川=(バス)=9:25富士見パノラマスキー場→9:55ゴンドラ山麓駅=10:05~35ゴンドラ山頂駅→11:15~25山彦荘→11:40~45御所平→12:25~55入笠山→13:45~55山彦荘→14:20~15:00ゴンドラ山頂駅=15:10~40ゴンドラ山麓駅=(バス)=17:55立川

## 【記 録】

入笠山にも雪が降ったようなので、スノーシューを楽しむことにする。富士見パノラマスキー場の駐車場はほぼ満車だった。レンタルのスノーシューを受け取りゴンドラ山麓駅に移動する。ゴンドラの切符は、団体一括でスムーズに乗車できた。ゴンドラから八ヶ岳がよく見渡される。ゴンドラ山頂駅でスノーシューを装着する。スキー場情報では積雪1mとあるが、話半分の50cm位か。レンタルスノーシューの一つが不具合により使用できないので、代替を待つ間、本隊は予定通り出発する。こういう予期しないことにも、対処できるようになりたい。

登山道は雪が少なく踏み固められており、スノーシューの威力を発揮できない。受講生は初めてのスノーシューが足になじまず、苦労している。遅れたスタッフと受講生は入笠湿原へ近道を取り、山彦荘で本隊に追いついてきた。雪が少ないためスノーシューでない登山者もいる。御所平で一休みし、本格的な登りにかかる。途中からスノーシューのヒールリフターを上げ、登りが楽になった実感を味わってもらう。最後の急登を上ると広い入笠山の頂上に出る。



山頂駅からの八ヶ岳

八ヶ岳、中央アルプス、甲斐駒ヶ岳、富士山、奥秩父などの360°の展望を欲しいままにする。風も弱いので山頂で白い峰々を楽しみながら昼食をとる。

昼食後、急な下山路を慎重に下る。途中から右手の雪面でスノーシュー

を活かした下りを体験してもらう。みんな歓声をあげながらスノーシューを楽しんでいる。まっさらな

雪面を自分だけで歩くことが、こんなにも楽しいことかと思う。入笠湿原を横切り、最後はアンテナ塔への登りを頑張ってゴンドラ山頂駅に到着。帰りの車内で受講生が「スノーシューが楽しかった」と興奮気味に話していた。登山の楽しさの幅を広げられてよかった。(文・写真/河野悠二)



快晴の入笠山山頂にて

## &lt;第7期初級登山教室&gt;

## 本仁田山 一急登つづく終了山行一

【日 時】 2020年3月7日(土)

【天 候】 曇りのち晴れ

【参加者】 36名(受講生 23名、スタッフ13名)[1班] 暁、川合、菅野(浅)、高岡、富山、中村(美)、元木、班L小河、班SL広瀬、講師宮崎、SP竹中、佐久間

[2班] 上市、小泉、高橋、日向、藤本、皆川、村上、矢野、班L中原、班SL西山、講師野口、SP小澤 [3班] 石橋、上田、長田、小林、菅野(尤)、菅野(玲)、原田、山本(曜)、班L山本(憲)、班SL中村(敦)、山行L河野、SP小野

【行 程】 9:20 奥多摩駅→10:05～15 安寺沢登山口→11:00～10 大休場→12:20～55 本仁田山→13:25 瘤高山→14:30～40 大根ノ山ノ神→15:25 鳩ノ巣駅

## 【記 録】

初級登山教室の恒例となった雲取山(小屋で1泊)の終了山行は、コロナ感染拡大のため変更しなければならず、日帰りで奥多摩駅裏の本仁田山に行くことになった。受講生に連絡すると「雲取山に行きたかったけど、中止や延期より良かった」と好意的だった。

当日は終了山行にふさわしい好天に恵まれた。奥多摩駅から安寺沢登山口までは、舗装された生活道をゆっくり歩く。安寺沢登山口からは、奥多摩三大急登の一つと言われる登りが始まる。かなりの急登が続くが、急がずに確実に高度を上げ、尾根の上に登りあげた。やはり受講生は確実に強くなったことを実感する。少しゆるくなった樹林帯の尾根を登り、花折戸尾根分岐を過ぎると本仁田山頂上だ。西側の樹木も伐採され更に展望が開けていた。ここで昼食とする。スタッフも受講生も持ち寄ったものを分け合って、和気あいあいと過ごした。

記念撮影後、ストックを全員に使用するよう指示し、下山を開始する。下りは北面側なので一部に霜柱が残っていた。瘤高山の狭い頂上で、ここでもまた急な下りに注意を促す。なだらかになった樹林帯で小休止し、大根ノ山ノ神まで下る。ここから先も石ころの多い登山道なので最後まで気を抜かないようにしながら、無事に鳩ノ巣駅に下りた。山里は春の花々に彩られ、のどかだった。

通常ならここで解散となるが、修了式のために奥多摩駅に電車で移動し、奥多摩BCで修了式を行った。今回の参加者には、野口支部長から全員に修了証が渡された。受講生から感謝のお酒



本仁田山山頂にて



をいただいたので、全員修了の祝杯を挙げた。コロナ禍で食べ物はほとんどなく、ドリンクでのどを潤すだけだったが、受講生はいつまでも名残り惜しそうだった。多くの受講生が山岳会に入会してくれるように期待したい。

(文/河野悠二、写真/河野悠二・山本憲一)

## &lt;第8期初級登山教室&gt;

## 笹尾根（槇寄山）—雪のない山でアイゼン練習—

【日 時】 2020年1月25日（土）

【天 候】 曇り

【参加者】 36名（受講生25名、スタッフ11名） [1班] 今中、内田、大澤（敦）、島崎、白川、徳永、三原、宮崎（順）、吉田（望）、渡部、班L広瀬、班SL齊藤（理）、SP人見、講師宮崎（紘）

[2班] 小俣、片野、久保島、後藤、白川、高田、山本（由）、山行・班L内藤、班SL小野（勝）、SP山内、SP石川

[3班] 小峰、塩谷、善田、田村、野村、平野、古谷、上原、班L山本（憲）、SL大澤（則）、SP浅香

【行 程】 9:00 武蔵五日市駅＝（バス）＝9:53～10:25 仲の平バス停→11:30 大平分岐→12:35 槇寄山→

14:50 大羽根山→15:50～16:10 浅間尾根登山口＝武蔵五日市駅

## 【記 録】

武蔵五日市駅のバス停には一般客が多かった。車内から道路を見ると所々に雪が積もっている。仲の平バス停に着くと曇っていて寒い。スタッフが寒い位の服装になるように指示する。しかし、なかなか脱げない人、しっかりと着込んだままの人もいた。歩き始めると着込んでいた者は暑くなり、衣服調整した。



冬枯れの槇寄山山頂にて

展望のない樹林の中を歩き続け、牧寄山に到着。ランチタイムにする。話もはずみ、皆の心も和む。食後、大羽根山に向け出発。毎年雪のある場所だが、今年は雪がない。宮崎講師は登山教室で8年この山に登っているが、雪がなかったのは初めてとのこと。それでもアイゼンの装着練習をする。内藤山行Lが、15分以内にアイゼンをザックから出して装着し、ザックにしまうように指示した。受講生に緊張が走ったかと

思ったが、手際よく10分程度で終わらせた。皆の姿を見て、とてもたのしく思えた。次回アイゼンを履くときはぜひ雪の上で実力を発揮してもらいたい。

大羽根山に到着し、写真撮影後、浅間尾根登山口に向け出発。途中足を滑らせる人もいたが大きな事故はなく、予定通り浅間尾根登山口に到着した。受講生がまた一步成長できたと感じた。

（文／広瀬雅則、写真／山本憲一）

## ミニレポート

## 山スキーは楽しい！

参加者／野口、他会員外

2020年1月26日 裏磐梯の雄国沼ツアーから雪不足で猫魔ヶ岳に転戦。霧氷と磐梯山や吾妻連峰の展望が見事だった。

2020年3月15日 上越の神楽峰中尾根は初心者向けツアーコース。天候改善し、大展望に満足。



猫魔ヶ岳からの磐梯山



神楽峰の稜線へ向かってシール歩行

## &lt;第8期初級登山教室&gt;

## 陣馬山 —くっきりと見える富士山に歓声—

【日 時】 2020年2月15日(土)

【天 候】 薄曇り

【参加者】 40名(受講生26名、スタッフ14名)〔1班〕今中、内田、大澤(啓)、嶋崎、白川(み)、徳永、三原、宮崎(順)、吉田、渡部、班L植草、SL中村、講師宮崎(紘)、SP小澤、SP人見〔2班〕天野、小俣、片野、久保嶋、小久保、後藤、白川(ま)、高田、班L富永、SL山本、SP小池、SP山内〔3班〕岩井、小峰、塩屋、善田、田村(満)、野村、平野、上原、班L小河、SL佐久間、SP浅香、SP大澤、山行L武藤

【行 程】 8:12 JR高尾駅→8:30～9:12 小仏バス停→9:26～30 登山口→9:50～10:00 植林帯手前→10:40～55 景信山→11:58～12:08 堂所山分岐→12:40～13:15 明王峠(昼食)→14:00～15 陣馬山→15:52 陣馬山登山口バス停=16:08 JR藤野駅

## 【記 録】

高尾駅から予定より20分早い小仏行のバスに乗る。20分ほどで終点着。小仏バス停で気温は9℃で、寒さ感じない。汗冷え予防に上着など着こみ過ぎないように注意する。アイゼン練習は雪不足で無理と思われていた。S字カーブを過ぎると、右側に景信山に直接登る東南尾根がある。例年歩いている小仏峠コースは登山道崩落で通れない。東南尾根は小仏峠コースより登りが厳しい感じがする。広くなった植林帯の手前で休憩をとる。

景信山山頂に着くと、茶店の西端からきれいな富士山が見えた。例年なら山頂からの下りは赤土がぬかるんで歩くのが大変だが、乾いているので歩きやすかった。ここから明王峠まで、堂所山を含め、大小6ピークを巻いた。明王峠で昼食をとる。薄曇りでもくっきりと富士山が見え、歓声があがった。和田峠への道を右に分けて、植樹されたサクラの木の下の階段状の道を登る。桜の季節はきれいだろう。陣馬山山頂



陣馬山山頂にて

は風がなく、写真を撮りあって楽しんだ。南西に富士山が堂々と大きく、その右に南アルプスの山々が白いピークを連ねている。西には笹尾根が近く大きく、北には奥多摩の山並みが重なっていた。来月山行予定の扇山も確認できた。

栃谷コースも乾いていて歩きやすかった。途中で猿の群れを見た。受講生は疲れも見せずによく歩いた。無雪期の低山歩きのいい練習になったと思う。(文/小河今朝美、写真/大澤則彰)

## ミニレポート

## 七面山一日蓮宗の聖山でプチ修行—

日時/ 2020年3月20日～21日

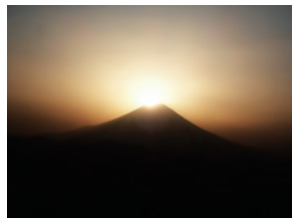
参加者/ L植竹(会員外)、伊藤(会員外)、石原、植草、中原、野口

行程/ 20日 久遠寺=羽衣=表参道=敬慎院

21日 敬慎院=七面山山頂=喜望峰ピストン=敬慎院=裏参道



山上の宿坊敬慎院

ダイヤモンド富士に  
パワーをもらう

喜望峰で南アルプスをバックに

敬慎院で朝晩、僧侶の読誦を聞き、精進料理をいただき、長布団で就寝、翌日はご来光を拝み、アイゼンをはいて七面山と喜望峰に登頂

## &lt;第8期初級登山教室&gt;

## 百蔵山・扇山 —こんなに歩いたのだ—

【日 時】 2020年3月21日(土)

【天 候】 晴れ

【参加者】 38名(受講生24名、スタッフ14名) [1班]今中、内田、大澤、白川(み)、徳永、三原、宮崎、渡部、山行L武藤、班L広瀬、班SL清水(茂)、SP人見  
 [2班] 天野、久保嶋、小久保、後藤、酒井、白川(ま)、班L西山、班SL中村(敦)、SL小池、SP山内、SP山本  
 [3班]岩井、郡司、小峯、塩谷、田村(郷)、田村(満)、野村、平野、古屋、上原、班L内藤、班SL小河、講師宮崎、SP浅香、SP大澤

【行 程】 9:00猿橋駅⇒(バス)⇒9:06~30百蔵山登山口/バス停⇒9:55~10:05登山口→10:40~50 800m展望地  
 →11:20~30百蔵山→12:15~50宮谷分岐(昼食)→13:35~45 910m地点休憩→14:30~40扇山→  
 16:00犬目バス停

## 【記 録】

バス停の列は電車が着くたび長くなっていく。早めに来たバスにギシギシと乗り込んでいると、臨時バスを要請したとアナウンスが入る。百蔵山登山口バス停で降車して体操。

民家立ち並ぶ車道の歩き出し。気温が高いので汗をかく。登山口で衣服調整をする。前回の登山教室以来の受講生もおり、不安がある様子も見受けられる。樹林帯に入り日差しからは逃げられたが、ジグザグに標高を上げていくと汗ばむ。トラバース気味に道がついていて、南に開けてくると声が上がった。開放感のある展望地は小広くベンチもある。眼下の猿橋大月の町と向こうの山並みと富士山を臨む。風が気持ちいい。ここで終わりでいいかもなどと冗談も飛び出す。100m上げて分岐点からはプロムナードのような緩い尾根歩き。百蔵山の東西に長くて広い山頂にたくさんの登山者(100人?)が休んでいるが、桜はまだ。

集合写真の後、約200mほど急降下があり、シングルストックでと指示が出る。ゆっくりと30分ほどで鞍部に下る。宮谷分岐で昼食後、今日一番の辛抱どころ扇山への300mの登りが待っている。後方に百



まずは百蔵山山頂で小休止

蔵山が見えてくると教わり、ゆっくり歩を進めていく。やがて振り向いた木立の向こうにぼっこりとした山容が見えてきた。ググっと下った稜線も見える。こんなに歩いてきたのだと受講生。しかし一辺倒の登りに息が切れ足も重い。やっと大久保山だ。あとひと踏ん張りと気を取り直して扇山山頂14:30到着。ここまで歩いた満足感が受講生の顔にじみ出ている。

下山は犬目バス停まで下りるが、一層気を緩めずにと注意を受けた。バス停には予定より少し早めに着いた。犬目の午後は今日も晴れていた。

(文/西山さより、写真/山本憲一)

扇山を登り切ってハイタッチ



扇山山頂で達成感にひたって



## ＜雪山を楽しむ会＞

## 西吾妻山 —リトルモンスターに会えるかな—

【日 時】 2020年2月29日(土)～3月1日(日)

【天 候】 1日目 晴れ、2日目 晴れ時々曇り

【参加者】 10名/L佐藤、SL清水(茂)、SL西山、赤坂(憲)、赤坂(優)、植草、鬼村、齋藤、酒井(真)、清水(義)

【行 程】 1日目/猪苗代駅集合=シャレー裏磐梯(宿泊)

2日目/7:30 出発=グランデコスキー場=(ゴンドラ、リフト)=9:10 リフト終点→10:50 西大巔→  
11:40 西吾妻避難小屋→12:20～40 西吾妻 山頂→13:40 西大巔→14:30 第4リフト終点→  
14:50 ゴンドラ乗り場=15:30 グランデコスキー場

## 【記 録】

◇2/29◇車2台に分乗し東京を出発。猪苗代駅でJR利用のメンバーと合流し、小野川湖畔のペンションに向かう。1時間ほど、雪山登山のリスクについて勉強会。宿は貸し切りで、夕食はワインや日本酒を飲みながら楽しいひと時を過ごした。  
◇3/1◇宿を車で出発し、グランデコスキー場に向かう。ゴンドラ、リフトを乗り継ぎ、リフト終点でワカン、スノーシューを装着し、登山開始。青空も時々望め、風もない。雪もサラサラでまずまずのコンディション。登り始めは樹林帯の中、各々好きなコースを進んでゆく。途中からガスってきたので、要所にルート旗を立てる。西大巔の直前は結構な急登で少し汗ばむほどだった。ここから少し下り樹木の疎らな斜面のトラバースとなる。西吾妻避難小屋を過ぎると10分ほどで西吾妻山頂に到着。登山者や山スキー



西大巔山頂は寒かったヤで賑わっていた。雪をまとった大小さまざまな樹氷、リトルモンスターが楽しい雰囲気醸しだしていた。残念ながらガスってきて、眺望はなく、山頂の標識も確認できなかった。風も強まり寒いので、20分ほどで下山開始。帰路はピストンでルート旗を回収しながら下る。最後はゲレンデの端を山頂駅まで下って、ゴンドラで下山した。裏磐梯レイクリゾートに立ち寄り、温泉で疲れを癒した。

(文/植草由利、写真/佐藤 守)



青空の下を西大巔へ登る



リトルモンスター

## ミニレポート

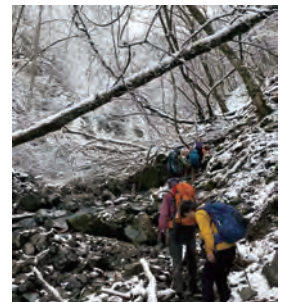
## 秩父の山里に福寿草を求めて

日時/2020年3月15日

参加者/L佐藤、SL齋藤、SL植草、清水(茂)、  
清水(義)、富永、西山、広瀬

行程/浦山常盤橋—細久保集落—カラ沢—  
福寿草群生地—独標—大ドッケ—金倉橋

雪の中に咲いた  
福寿草



浦山川支流のカラ沢を遡行すると上流の斜面に福寿草の自生地が広がっていた。時折ガスがかかり、昨夜の降雪もあって予想外にハードな山行だった。

カラ沢も雪景色



## 山と酒の文化を尋ねる会

### 第4回 「大山」登山と蔵元見学 ひよっこ会と合同で

【日時】2019年11月16日(土) 【天候】快晴  
 【参加者】山と酒の会10名、ひよっこ会7名(茶色文字で表示)  
 [1班]山行L岡、班L土井、班SL大澤、諏訪、矢澤、上原(本部)  
 柳田、吉川、[2班]山行SL河野、班L武藤、班SL小澤、  
 浅香、玉井、寺井、石塚、川口、見学会のみ田中(清)  
 【行程】9:16伊勢原=10:15阿夫利神社→12:20~40  
 大山山頂→見晴台→14:40阿夫利神社(登山は解散)  
 =16:00~17:30吉川醸造(見学後解散)

【記録】大山山行はひよっこ会(第5期登山教室卒業生の会)との合同となった。秋の長雨が続けていたが、この日は久しぶりの晴天の土曜日。登山道は人の列が途切れることがなく、鎖場では渋滞が発生するほどの賑わいだった。それでも富士山や紅葉、遠く相模湾を眺めながら、めったに会えない仲間と一緒に歩くのは楽しいものだった。

ひよっこ会とは阿夫利神社で別れ、当会のメンバーは純米酒「大山」を造っている吉川醸造へ。蔵元



快晴の大山山頂にて、相模湾を背景に

では社長が丁寧に説明しながら、麴室や醪(もろみ)の入った槽(ふね)を見せてくれた。

お酒を造る上でもっとも大事な水は、大山の伏流水を井戸3本で汲み上げているそうだ。しかし最終的に味を決めるのは、杜氏の「心」にあるという。日本の「ものづくり」の原点はここにあると思った。

(文/岡 義男、写真/大澤則彰)

### 第5回 「戸倉城山」登山と 断層の勉強会



断層観察のあとはBCで勉強会

【日時】2020年2月9日(日) 【天候】晴  
 【参加者】L土井(充)、大澤、河野、松川、岡、  
 勉強会のみ:石井、副島、吉川  
 【行程】武蔵五日市駅=8:30西小中野→9:00子生神社→沢戸橋下  
 河原(観察)→10:00戸倉神明神社→11:00~30戸倉城山山頂→  
 12:10登山口→戸倉五日市散策(古民家・野崎酒造・郷土館など)→  
 13:32武蔵五日市駅=奥多摩駅→15:15~18:00 BC

【記録】日本列島西半分の殆どは、海溝で海洋プレートが沈み込む時に、海洋底の堆積物が大陸側に押し上げて作られた、逆断層の積み重なりで形成されている。その一部の秩父帯(1~2億年前)と四万十帯(0.25~1億年前)の境界が秋川の沢戸橋付近で露出しているため、観察を兼ねて戸倉城山に登った。山頂から見下ろす五日市の街は鳥観図のようだった。戸倉の古民家や「郷土館」などを見学し、五日市の歴史や風土に触れた。

その後、BCで勉強会。栃木の「仙禽」で、最初に醪の自重で滴る白濁した「荒ばしり」、透明で安定した「中取り」、加圧して搾った力強い味の「責め」の違いを体験した。「しろやま桜」、「高尾山」、「富士山」、差し入れの銘酒「~~メ~~張鶴(新潟の宮尾酒造)などの味比べもした。酒造りに重要な水を生み出している岩盤の地質の観察と、お酒の搾り方による味の違いを体験した。また一つ山と酒の文化の繋がりの貴重な知見を得た。

(文・写真/岡 義雄)

## 低山を楽しむ会

### 晩秋の飯山白山に 歌声が流れて

【日時】2019年12月10日 【天候】晴れ

【参加者】26名/L神崎、SL今田、SL辻橋、SL小清水、SL小口、SL石塚、本多、富澤、高橋(重)、中野、原、澤登、川口、田中(清)、夏原、石井(秀)、酒井(省)、本間、川村、竹中、市川(義)、吉田(文)、廣田、(静岡支部)長田義則、實川欣伸、實川美樹

【行程】9:00小田急本厚木駅⇒9:40飯山観音前バス停→飯山観音長谷寺→女坂男坂分岐→(女坂)→11:00白山山頂→11:30白山神社→(男坂)→飯山観音長谷寺→12:30~15:30「ふるさとの宿」=16:30本厚木駅

【記録】飯山観音長谷寺の広場を出発し、女坂らしくない山道を苦勞して上ると稜線に出て、白山山頂に着く。記念撮影をして、白山神社へ向かう。男坂から下山する。隊列が長くなったところで、下の方から歌声が聞こえて来た。先行組が「山の歌」を歌い始めたのだ。後続組も合流し、「朧月夜」や「もみじ」などを唄った。「もみじ」は輪唱となって、深まりゆく秋の風景の



白山山頂でこれまでに最多の26名が勢ぞろい

中へ溶け込んでいった。

飯山観音長谷寺に戻り、「ふるさとの宿」で入浴。懇親会が地酒「盛升」で宴たけなわになる。参加者がそれぞれ挨拶。静岡支部の實川欣伸さんは富士山に2000回以上登っていて、目標は√5=フジサンロクオウムナクの2,036回と。こういう山仲間との交流が元気・活力の源となっていると感じた。

(文/田中清介、写真/石塚嘉一)

### 長瀨アルプスから ロウバイの咲く宝登山へ



宝登山山頂にて

【日時】2020年2月14日 【天候】晴

【参加者】9名/GL本多、L石塚、SL小清水、SL辻橋、岡、河野、佐伯、原、松川(征)

【行程】9:50秩父鉄道野上駅→10:00萬福寺→10:10長瀨アルプス登山口→11:00天狗山分岐→11:30氷池分岐→野上峠→小鳥峠→11:50~12:20奈良沢峠(昼食)→12:35宝登山北登山口→13:10~30宝登山山頂→14:30宝登山神社→14:50~15:51長瀨駅→16:12寄居駅(解散)

【記録】9:30、野上駅に集合。萬福寺の先の「長瀨アルプス登山口」から、水でえぐられた急な山道を登り始める。やがて尾根道に出ると道は緩やかで歩きやすくなり、道標も整備されている。時々汗ばむほど気温も高い。



満開のロウバイの向こうに武甲山が

冬枯れの雑木林の間を登って、天狗山分岐、氷池分岐を過ぎたが、ほとんど人に会わず、静かな山だった。峠をいくつか越えて林道に出て奈良沢峠で昼食。林道を進むと「毒キノコ看板」があり、見分け方が書いてあった。

そばの登山口から宝登山頂上を目指す。この日一番のきつい登りの約200段の木の階段をフーフー言って登る。山頂(497m)ではロウバイの黄色い花が満開だった。あたり一面に甘い香りが漂っていた。初参加の佐伯さんは大喜び。ロウバイの花の間から武甲山や両神山など奥秩父の山々の展望が見え、パノラマのようだ。天気にも恵まれ、おだやかな尾根歩きと満開のロウバイを存分に楽しめた。

(文/小清水敏昌、写真/石塚嘉一)

## 講演会

## サテライト・サロン吉祥寺

### 白夜の北欧で キャンプ場巡り 19日間

第52回の講演会は、2019年11月27日の本町コミュニティセンターで、東京都勤労者山岳連盟「ぶなの会」の今井正史氏を講師にお招きして開催した。今井氏は7月22日から19日間かけてフィンランドとノルウェイのキャンプ場を巡られた。

キャンプのメンバーは60歳代から80歳代の男性4名、女性2名。現地で9人乗りレンタカーを借りて走り回り、地図でキャンプ場の目星をつけては、表示板で見つけるといった気ままな旅。毎日150～200km走行し、累積距離は5000kmにも達した。



ノルウェイとの国境近くで低山ハイイク



フィンランドのコリ国立公園で

ドライブ中やキャンプ場で国立公園を見つけ、何度かハイキングした。目の前に氷河が見えたこともあれば、世界遺産のクヴァルケン群島にも行った。

夕食はスーパーで地元の食材を買い、キャンプ場で自分達で作った。ムール貝を載せた北海ラーメンなど！ 夜も遅くまで明るいので人々は、ボート遊びや釣り、水泳、サウナを楽しんでいた。大自然と思い切り遊んだ19日間だった。（文／副島一義）

### 中央アジアのキルギスに 魅せられて！

第53回は、1月29日に本町コミュニティセンターで開催された。講師の前田種雄氏は2000年に64歳で海外コンサルタント会社を退職後、知人に触発されマウンテンバイクを始め、それを契機に国内や海外をマウンテンバイクで走破するようになった。

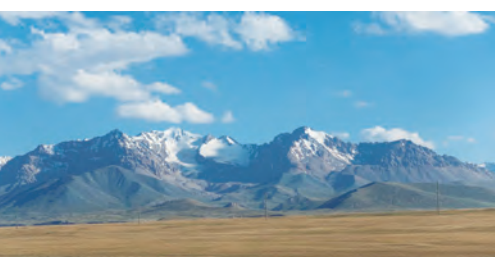
2006年にはシルクロード雑学大学の仲間と、天山山脈の難所トルガルト峠を自転車で越えて、初めてキルギスに入国。以来、キルギスに惚れ込み、自転車と自動車ですれぞれ5回ずつ、訪問した。友人のキルギス人運転手、通訳、家族が同行することも。

に恵まれた国も珍しいという。同時に人情深い国民性にも触れ、ますます魅力にとりつかれた。

今回、キルギスの地理、言語、民族、国際関係、アクセスなどを幅広く紹介。サロン参加者23名は、前田氏のキルギスへの熱い想いに聞き入った。（文／副島一義）



トルガルト峠で友人や家族と



中央アジアを横切る天山山脈



ソンクル湖近くの坂道



遊牧民のテント



11世紀頃の遺構「ブランの塔」

## 自然保護委員会

## 野火止用水保全地域の保全活動

自然保護委員会は4月から東京都保全地域の「野火止用水歴史環境保全地域(小平市中島町)」で保全活動を開始します。従来、雲取山石尾根登山道整備清掃登山、御前山カタクリパトロール、三ツ峠アツモリソウ保護活動を実施してきましたが、自分達のフィールドで自然保護活動を実践したく候補地を探していました。今回、2月に東京都に上記地域の緑地保全活動を申請し、3月に承認されました。

本地域は、小平市中島町から東久留米市小山に至る延長9.6kmの野火止用水路と隣接樹林地です。中島町地区は、玉川上水から取水され、暗渠になった部分の一番西側にある「明るい雑木林(コナラ、ク

ヌギが主体)」です。西武拝島線東大和市駅から徒歩7～8分と近く、「こもれびの足湯」(無料)に隣接し、更衣室、トイレが借用できます。雑木林の東側と南側には住宅が隣接しており、林内は住民の生活道が通っている平坦な土地です。

保全活動は、草刈り、倒木整理、柵などの設置で、エリアマップ・毎木・生物歴調査などを行います。活動は月1回程度を考えています

このように立地の良いフィールドで、心地よい汗を流してみたいかたがでしょう。ご興味がある方は、是非ご参加して下さい。(文/河野悠二)

問合せ先:河野悠二

電話:042-544-4738

メール:kyuuji@mwd.biglobe.ne.



野火止用水保全地区



3月に幹事団も視察



近くには福祉施設のカフェも

## 講演会

## サテライト・サロン多摩

## 多摩支部の出発点—支部設立時の思い出—

サテライト・サロン多摩は2月29日(土)午後1時30分から、多摩市立関戸公民館(聖蹟桜が丘)で、講演会「多摩支部の出発点—支部設立時の思い出—」を開催した。

2月は東京多摩支部の設立された月、さらに今年には設立10年目という一つの節目だった。竹中彰初代支部長が東京多摩支部が設立された登山背景などを、朝日新聞と読売新聞の関連記事を見せながら、詳しく説明した。三渡忠臣初代事務局長も資料、映像などを示しながら、当時を振り返った。

参加者は竹中、三渡、石井、中野、北島、高間、中里、筧、市川、本多、沢登、廣田、原、神崎の14名。東京多摩支部のことにとどまらず、当時を懐かしむ



2020年1月に開かれた設立10周年記念パーティー

四方山話に花が咲いた。

あっという間に過ぎた楽しい2時間半だった。

(文/神崎忠男)

## インフォメーション／山行・イベント

### ＜山行委員会 / 定例山行＞

◆戸倉三山（奥多摩） 6/20(土) ★★★/★  
秋川流域の3峰を縦走。集合 / JR 武蔵五日市駅 7:00、  
武蔵五日市駅＝元郷 BS→白杵山→市道山→刈寄山→  
今熊山→今熊 BS、歩行時間 / 8.5 時間、申込 / 富永、  
締切 6/6(土)

◆田代山・帝釈山 7/4(土)～5(日) ★/★★  
湿原の花と池塘を愛でながら、針葉樹林を徘徊する。  
集合 / 立川多摩信用金庫横 06:00、猿倉登山口→  
小田代→田代山湿原→田代山避難小屋→帝釈山→  
田代山避難小屋→小田代→猿倉登山口、  
歩行時間 / 7.5 時間、申込 / 鬼村、締切 6/20(土)

◆白砂山 8/1(土)～2(日) ★★★/★★  
新潟、長野、群馬県境の稜線歩き。集合 / JR 長野原草  
津口駅 10:30、1 日目 / 野反峠→エビ山→野反湖畔、  
2 日目 / 野反湖畔→登山口→白砂山→登山口※長く  
しっかり歩きたい方向けです。歩行時間 / 1 日目約  
3.5 時間、2 日目約 8.5 時間、申込 / 西山、締切 7/19(日)

◆槍ヶ岳 9/12(土)～14(月) ★★★/★★★  
槍ヶ岳を信州側と飛騨側から望む。集合 / 上高地山研  
(9/12)05:40、1 日目 / 6:00 山研→河童橋→明神館→  
白沢出合→徳沢ロッジ→新村橋→横尾山荘→一の俣→  
槍沢ロッジ、2 日目 / 槍沢ロッジ→水俣乗越分岐→天  
狗原分岐→天狗池→天狗原分岐→グリーンバント→殺  
生ヒュッテ→槍ヶ岳山荘→槍ヶ岳山頂→槍ヶ岳山荘、  
3 日目 / 槍ヶ岳山荘→飛騨乗越→千丈沢分岐→槍平  
小屋→滝谷出合→白出沢出合→奥穂高登山口→1 穂高  
平小屋→新穂高温泉駅 (15:25 解散)、歩行時間 / 1 日  
目約 6 時間 15 分、2 日目約 10 時間、3 日目約 9.5 時間、  
申込 / 小野、締切 9/2(水)

◆王岳 9/26(土) ★/★★  
古の峠道と御坂西部・王岳を訪ねる。集合 / 河口湖駅  
前・西湖周遊バス乗り場 8:40、9:10 河口湖駅発＝  
漁民荘前バス停→登山口→鍵掛峠→王岳山頂→五湖山  
→女坂峠→精進バス停＝河口湖駅 (17:15 解散)、歩行  
時間 / 5～6 時間、申込 / 石橋、締切 9/16(水)

#### ＜連絡先＞

赤坂 優貴	masaki-r380.bcnr33@docomo.ne.jp	090-1632-3637
石橋 學	m.ib@gaea.ocn.ne.jp	090-2670-0895
鬼村 邦治	onimura@jcom.zaq.ne.jp	090-1119-0644
小河今朝美	magunoria.saku1234@gmail.com	F042-627-8840
小野 勝昭	katuaki.ono@gmail.com	090-9014-7251
西山さより	okabasaku3911@gmail.com	090-9801-4146
富永真由美	tomin@palette.plala.or.jp	080-2053-2063
副島 一義	mayu333soe@nifty.com	090-5778-7336

★は「体力 / 危険度」

### ＜山行委員会 / 平日山行＞

◆天城山（伊豆） 5/28(木) ★/★  
百名山、天城シャクナゲを楽しむ。集合 / JR 伊東駅  
9:00、伊東駅＝(タクシー)＝天城高原ゴルフ場→万  
次郎岳→万三郎岳→天城高原ゴルフ場＝(タクシー)  
＝JR伊東駅、歩行時間 5 時間、申込 / 鬼村、締切 5/15(金)

◆高尾山 6/18(木) ★/★  
金毘羅宮・浄心門経由で山頂。集合 / JR 高尾駅北口  
9:20、高尾駅北口→落合→金毘羅台園地→1 号路→  
ケーブル高尾駅→4 号路→吊橋→高尾山頂→薬王院→  
ケーブル高尾駅→ケーブル清滝駅、申込 / 副島、締切  
6/6(土)

◆興因寺・湯村山 7/16(木) ★/★★  
甲府盆地北山から南アルプスと富士山を望む。集合 /  
甲府駅北口タクシー乗り場 9:00、甲府駅 (タクシー  
30 分)＝穴口→興因寺山→淡雪山→湯村山→穴口峠→  
湯村バス停、歩行時間 / 3.5 時間～4.5 時間半、申込 /  
石橋、締切 7/6(月)

◆丸山（奥武蔵） 9/24(木) ★★/★  
奥武蔵随一の展望を楽しむ。集合 / 西武秩父線 芦ヶ  
久保駅 09:10、芦ヶ久保駅→倉掛登山口→日向山分岐  
→県民の森→丸山山頂→大野峠→赤谷登山口→芦ヶ久  
保駅、歩行時間 / 4 時間 40 分、申込 / 赤坂 (優)、締  
切 9/14 (月)



#### 絶滅危惧種

#### 三ツ峠アツモリソウ保護活動 (会員対象)

目的 アツモリソウの保護活動 (主に除草作業) を  
三ツ峠山荘中村氏指導で行う

主催 本部自然保護委員会、  
東京多摩支部自然保護委員会

集合 富士急行河口湖駅  
5 番「**中**」茶屋 行きバス乗り場 9:30

日程 6/14(日) 三ツ峠山荘、山荘周辺で  
保護活動、懇親会  
日帰り 三ツ峠登山口バス停下山

6/15(月) 三ツ峠山登頂散策、2 組に分かれ  
往路か府尾根コースを下山

参加費 10,000 円

募集 25 名

申込 小河今朝美 詳細は HP をご覧ください。

締切 5/31(日)

## 会務報告

### 評議員会懇談会報告

支部長 野口いづみ

2020年3月30日に東京多摩支部評議員懇談会と懇親会を予定し、評議員の皆さまから参加のお申し込みを頂いた。しかし、新型コロナウイルス感染症感染拡大のために懇親会は3月上旬に中止とした。懇談会も様子を見たが、25日に中止決定を余儀なくされた。評議員には懇談会で配布予定だった各委員会報告書などの資料をお送りした。事前に送られていた準会員の役員登用についての質問は、人材登用PTの報告書の中に含めて回答した。直接会員の声をお聞きする貴重な機会を持てなかったことは残念なことだった。

### 幹事会報告（特記事項のない委員会の報告は省略。詳細は支部HP「会議案内」を参照）

115-117回幹事会報告出欠（116回小口監事欠席以外、出欠と会場は変わらないので省略）

出席：野口支部長（会報兼務）、高橋副支部長（10周年記念兼務）、武藤幹事長（総務兼務）、山本事務局長（ICT兼務）、植草（財務）、河野（自然保護）、小野（山行）、佐藤（安全対策）、中村（敦）（奥多摩BC）、岡田、（監事）小口、小清水、計12名、欠席：長瀬、石塚、記録 山本

会場：立川女性総合センター5階第1会議室

#### ■第115回 幹事会報告

日時 2020年1月21日（火）18:30～20:15

[野口支部長挨拶] 1月18日には支部設立10周年式典があり、盛会だった。本部で評議員会があり出席した。古野会長から役員の70歳定年制について再考されるような発言があった。

[事務局連絡]（山本）都岳連関連「シンポジウム～これでいいのか都岳連？～」2月29日開催予定、支部関連「2020年度全国支部懇談会」（宮崎支部主管）開催予定、「支部通常総会」5月9日開催予定、来期事業計画案と事業予算案検討スケジュール。

#### [審議事項]

（武藤、総務）本部で準会員制度の変更がなされ、対応する支部規約改訂について説明。準会員が支部長を除く支部の役員を務めることができることになった。次回総会で本部のルール改正に沿った支部規約改訂提案したい。準会員が監事になることに疑義あり、次回の幹事会に改訂案を出す。

#### [委員会報告]

（財務、総務、安全は別表参照）

（植草、財務）ザンスカール遠征登山支援の募金受け入れは従来の振替口座を利用。

（武藤、総務）10周年記念行事式典参加者は106名（当日4名欠席）。講演会参加者93名、講演会のみ参加者21名。

（野口、会報）会報39号に長尾平懇親山行、海外登山（モンゴル他）、ザンスカール寄付金募集のチラシを同封する。

（小野、山行）焼石岳事故報告書を配布。「お誘いメルマガ」中止は支部長より反対の意見あり。

（河野、自然保護）高尾山シモバシラ観察会は雨天予報のために中止。シモバシラ観察が難しくなっており、中止する方向。

（佐藤、安全対策）12月20日遭難対策本部の活動シミュレーション研修実施し、参加者20名。セルフレスキュー講習会（2月、3月）、メディカルハイキング（5月）開催予定。山の天気ライブ授業（神奈川支部）に2名視察予定。

（中村、BC運営）1月12日「氏神様初詣とBC開き」開催（40号p.4参照）。「奥多摩アート・フェスティバル」（9月～10月）に参加予定。

（山本、登山教室）7期1月登山実習「三ツ峠山」で受講生が受傷し、河野山行Lが事故報告書に従って説明。第9期登山教室は資料請求12名。本部HP、ヤマケイオンラインに掲載依頼。チラシを各新聞社に掲載依頼など。今期収入でトランシーバー、ガスバーナー、コップルなどを購入する。備品の管理場所を確保する必要がある。

（監事）次期役員については、長く委員長をやっている方などは退任を考慮してほしい。

#### ■第116回 幹事会報告

日時 2020年2月18日（火）18:30～20:12

[野口支部長挨拶] 評議員会が開催されるので、幹事もできるだけ参加されたい。

[事務局連絡]（山本）都岳連関連として山の天気入門講座紹介、支部関連として2020年度全国支部懇談会（宮崎支部主管）、東京多摩支部総会案内。

#### [審議事項]

（武藤、総務）本部の準会員規程との整合性について疑義があり、本部の規程に沿って再検討をしてほしいとの意見や、準会員が監事・評議員になることに疑義あり。役員になる人材が不足している現状を鑑み、本部の準会員規程に沿って準会員は支部長になれないとの限定で良いと思う。本部の規程を確認して再検討。

#### [委員会報告]

（植草、財務）ザンスカール遠征登山支援の寄付金の礼状と証明書は順次発行の予定。

（武藤、総務）10周年記念行事の記念式典収支はトントン。講演会収入10,500円、支出48,612円。全体総括、改善点、反省点を報告。

（野口、会報）会報39号を2月11日に発刊。翌日メール便配送。紙会報は会員255部、マスコミ・救助隊・山小屋など20部配送。ITC委員会がメール会員62名へ配信、HPへアップ。

（小野、山行）「お誘いメルマガ」原稿は1週間前にICT委員会提出。（ICT委）少なくとも10日前にICT委員会に提出してほしい。（安全対策委）登山計画書の提出期限を考慮すると早めに出す必要。山行報告書は各山行担当者がICT委員会、会報委員会へ提出する。

（河野、自然保護）「野火止用水保全地域」は来年度は調査活動を主とし、保全活動はシュロ伐採、倒木整理、道脇の柵設置設置など活動は1～2ヶ月に1回とする。

(佐藤、安全対策)「山の天気ライブ授業」は2021年3月27-28日を予定。遭難事故報告とヒヤリハット報告の収集と情報の共有化を検討。山岳保険勉強会の実施検討。

(山本、登山教室)7期1月登山実習「三ツ峠山」で受講者が転倒し、擦り傷と鼻血を出すヒヤリハットがあった。第9期登山教室は資料請求29名、申込16名。2月28日のリーダー研修会で三ツ峠山の事故について討議し、来期の8期と9期の指導体制を協議。

(高橋、10周年記念事業)記念誌は4月上旬に仕上がり予定。エベレスト街道トレッキングは順延。

(武藤、幹事長)次期の幹事候補が少ないので幹事は推薦をお願いしたい。幹事長という役職が必要か幹事会組織変更も含めて議論をしていきたい。

(監事)準会員規程は本部の規程を精査して再検討してほしい。

### ■第117回 幹事会報告

日時 2020年3月17日(火) 18:30～20:27

[野口支部長挨拶]新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2月27日の安全対策講習会を中止。28日に古野会長からイベント中止の通達があった。諸々の行事が中止となり、何かとバタバタすると思われる。

[事務局連絡] 都岳連関連として2月26日に松本敏会長から新型コロナウイルスによる肺炎の予防対応についての通達が出された。

#### [審議事項]

(武藤、総務)本部における準会員制度の変更に対応する支部規約改訂について総務担当理事に確認を行った。「本部の準会員規程では、支部及び本部の総会では議決権を持たない」とすることを総務担当理事に確認したところ、再考するとのことだった。支部長から、準会員を役員に登用する件に関しては、12月発刊の会報等で広報している。支部長が本部総務担当永田理事に確認したところ、支部の役員は本部の役員とは違うものであり、支部に任せるとの回答があった。事務局長から会員動向資料を配布、説明。正会員が20人前後/年減少すると会員数は減少していく。正会員の高齢化は非常に進んでおり、退会者を減らすことは難しい。

準会員は4年を経て正会員にならないと役員になる資格はないのが現状であり、人材不足を助長している。本部の規程が変わったことに対応する形で支部規程を変えればよいのではないかと。第1案として「議決権を持たないが役員にはなれる」形の規約改訂を行う、第2案として来年までに変更を目指すということで、評決し、第1案支持者6名、第2案指示者4名となり、第1案で規約改訂を行う。

#### [委員会報告]

(植草、財務)未入金者は33名で、催促する。ザンスカール遠征登山支援の寄付者リスト配布。3月31日でいったん締めて会計報告をするが、引き続き募金は続く。今野英美さん(A055)が財務委員就任。

(武藤、総務委)新入会員懇親散策の対象者21名に招待状を郵送。富澤委員が退任。

(野口、会報)会報40号の編集を開始。なるべく早い投稿をお願いしたい。山行中止の場合も幹事会MLか会報担当者(野口)まで連絡してほしい。ミニレポート等の投稿をお願いしたい。

(小野、山行)10周年記念懇親山行は秋に延期。小野委員長は退任の意向で5月の委員会までに後任を決定。河野委員、小川委員が退任。

(河野、自然保護)野火止用水保全地域は3月5日に申請書、年間活動計画などを郵送、許可された。腕章はやめて登り旗にする。同地域の一部を八大緑遊会が使用しており、調整を行う。茂出木委員が退任。

(佐藤、安全対策)コロナウイルスの関係で安全登山講習会、上級救命講習会、神奈川支部「山の天気ライブ授業」視察中止。安全登山対策規程第14条に基づき、事故報告書の提出を周知徹底してもらう。関連事項(ヒヤリハット)今後の公開、個人山行の事故報告について検討する。

(山本、登山教室)第7期修了登山は新型コロナウイルスの関係で本仁田山日帰り山行とし、奥多摩BCで修了式を行った。「棒ノ折山」は童ヶ岳としていたが、九鬼山に変更。2020年度中級登山教室は10名から申込があった。第9期登山教室は資料請求34名、申込24名。来期から宮崎統括L、河野統括SL、複数の山行Lの共同指導体制で臨む。

### 会員移動 1～3月(総務委員会)

	入会	氏名	会員番号	住所
1月	準会員	海老原 聡一郎	A0246	江戸川区

退会 / 上野 美裕 13407、諏訪久美子 A0151、  
前田 明代 A0143、矢ヶ崎 一幸 14609

### 会員動向 1～3月(総務委員会) (人数/名)

	総会員	通常会員	準会員	会友
1月末日	322	248	73	1
2月末日	322	248	73	1
3月末日	319	247	71	1

### 2019年度会費入金状況(財務委員会) (人数)

	入金者数	未入金者数	備考
1月	278	46	
2月	291	34	
3月	309	16	入金後退会 5

### BC利用状況(BC運営委員会) (人数)

	宿泊			日帰り・一時利用(休憩)		
	会 員	会 員 外	合 計	会 員	会 員 外	合 計
1月	3	0	3	16	0	16
2月	0	0	0	8	0	8
3月	1	0	1	37	0	37
1-3月合計	4	0	4	61	0	61

### 登山計画書受理・検討件数(安全対策委員会) (件)

月	支部山行	同好会山行	個人山行	合計
1月	5	1	3	9
2月	3	-	11	14
3月	4	1	10	15
1-3月合計	12	2	24	38

## カレンダー（2020年5月10日～8月31日）

日程	山行	イベント（講座・講演）
5/16-17（土日）	定例山行「庚申山」	
5/28（木）	平日山行「天城山」	
6/18（木）	平日山行「高尾山」	
6/20（土）	定例山行「戸倉三山」	日本山岳会通常総会
7/4-5（土日）	定例山行「田代山・帝釈山」	
7/16（木）	平日山行「興因寺・湯村山」	
7/29（水）		9期登山教室説明会
8/1-2（土日）	定例山行「白砂山」	
8/5（水）		8期講座「春と夏の山の天気」
8/27（水）		8期講座「山の医療」

（新型コロナウイルス感染症の影響で延期や中止  
の場合がありますので事前にご確認ください）

### 「生ビールを呑んで、花火を楽しもう会」 愛宕山の上に関ヶ山花火に夏を見送ろう

日時：8月8日（土）午後4時～午後6時  
会場：奥多摩 BC  
会費：1500円 + 300円（BC 利用料金）  
締切：8月5日  
申込：坂本正智 詳細は HP をご覧ください

葉書：206-0031 多摩市豊ヶ丘 2-1-8-102  
Fax：042-373-3238 携帯：090-1839-8424  
メール：big-matti@kkh.biglobe.ne.jp



### 会報委員会からお願い

原稿は本号を参考にして作成し、文章と写真をワンセットでお送りください。写真のサイズはできれば1MB以上、難しければ500KB以上でお願いします。

会報をメールに添付してお送りするメール会員を募集しています。会報の整理が容易になり、支部経費も削減されます。埼玉支部ではメール会員が8割ですが、本支部では2割に過ぎません。是非、[ttm@jac.or.jp](mailto:ttm@jac.or.jp) へお申し込みください。

### 山の唄を歌う会 一緒に唄を歌いましょう！

一昔前まで山で「山の唄」を歌うことは常識でした。テントの中で、焚火を囲んで、仲間と歌い一日の疲れを癒しました。しかし、今、山の唄を歌う伝統が失われようとしています。「山の唄」は最も身近にある山の文化であり、絶やしてならない私達の文化であるとの思いで、2017年8月に山の唄が好きな会員が声を掛け合い、支部同好会として発足しました。

会員数は30名ですが、自由に一緒に歌うことにしており、どなたでも参加できます。定例会を月1回（第4週火曜日夜）、八王子市生涯学習センターで開催しています。山の唄を綴った「山の唄本」を手に、山の想い出話をしながらアカペラなどで楽しく歌っています。年1回は高峰高原の山小屋に遠征し、千葉支部会員も加わり、懇親会を実施しています。

支部会員の皆さんにも山の唄を喜んでいただけたらと思います。歌う機会あれば出向いて皆さんと一緒に歌うようにしています。1月の10周年記念式典でも皆さんと歌いましたね。山の唄と一緒に歌っていただけたことで、山の楽しみが増え、また支部活動もより楽しくなるとお思います。

（文／石井秀典）



**編集後記** そよ風が心地よい季節になりましたが、今年は「この風にウイルスが含まれているだろうか」と不安に思います。山も自粛され、山に自由に行けることが、幸せで貴重なことと改めて知らされます。ウイルス蔓延の終息の兆しは見えませんが、止まない雨はありません。気持ちを合わせて、山に再び行ける日が1日も早く来るようにがんばりましょう。それまで体力を落とさないように努めることも大事です。（野口いづみ）

会報 **たま** 第40号 2020年5月5日発行  
発行所 公益社団法人日本山岳会東京多摩支部  
〒188-0011 東京都西東京市田無町 4-11-11  
[izumi\\_noguchi@yahoo.co.jp](mailto:izumi_noguchi@yahoo.co.jp)

会報委員会 野口いづみ、石川さとみ、加藤真美、  
村岡庸こ、吉川三鈴、SP 植草由利、  
櫻井美奈子、嶋田恵美子